

様式第1号

会 議 録

会議の名称		令和3年度第2回つくば市公共交通活性化協議会	
開催日時		令和3年(2021年)11月15日 開会 13:30 閉会 15:30	
開催場所		つくば市役所 本庁舎6階第1委員会室	
事務局(担当課)		都市計画部総合交通政策課	
出席者	委員	岡本委員、中村委員(代理:富山様)、鈴木(裕)委員、牧瀬委員、中嶋委員、横地委員、新階委員、松橋委員、大野委員、服部委員、海老澤委員、武藤委員、福士委員、渡邊委員、長委員、大井委員、星野委員、金谷委員、鈴木(誠)委員、大澤委員、鈴木(保)委員、川根委員、一色委員、飯田委員、小原委員、津野委員、富田委員、中根委員 ※横地委員、松橋委員はオンライン参加	
	その他	牛久市※オブザーバー参加	
	事務局	岡田次長、伊藤課長、細谷課長補佐、田村係長、上田主査、井崎主事	
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数 5名
非公開の場合はその理由			
議題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支線型バス及び各路線バス実証実験の今後について</li> <li>・令和4年度路線バス運行実証実験事業について 他</li> </ul>	
会議録署名人		—	確定年月日 令和 年 月 日
会議次第	1 開 会		
	2 挨拶		
	3 議 題		
	(1) 審議案件		
	審議案件 1	支線型バス及び各路線バス実証実験の今後について	
審議案件 2	令和4年度路線バス運行実証実験事業について		
(2) 報告案件			
報告案件 1	令和3年度上半期利用実績について		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくバス</li> <li>・つくタク</li> <li>・支線型バス実証実験</li> <li>・路線バス実証実験</li> </ul>		
報告案件 2	令和2年度広域連携バス利用実績について		
報告案件 3	つくタクの特例ポイントの変更について		

様式第1号

	<p>報告案件4 筑波地区支線型バス一部運休について          報告案件5 つくバス広告事業に係る協定書の締結について          報告案件6 新高校生(令和3年度入学生)へのバスお試し乗車券配布結果について</p> <p>4 その他          5 閉会</p>
<p>&lt;審議内容&gt;○：委員 ●：事務局 ◎：オブザーバー</p> <p>・審議案件1 支線型バス及び各路線バス実証実験の今後について</p> <p>●事務局：令和3年第1回協議会（以降、「第1回協議会」）において今後の方針を審議した支線型バス及び各路線バス実証実験について、資料1に基づき、第1回協議会以降の検討状況及び今後について説明。</p> <p>○会長：まず、筑波地区支線型バスについて審議を行いたい。</p> <p>○委員：購入を予定している車両について、車いす非対応を予定している理由をお聞きしたい。</p> <p>●事務局：10月8日（金）に行った各区長及び民生委員との意見交換会において、事務局から車いす対応車両の必要性の是非について伺ったところ、車いす対応車両とすることによる乗車人数の制限等の理由から必要性はないとのことであった。</p> <p>○委員：アクセシビリティの観点から問題があるのではないかと感じたが、地元住民との合意が図られているのであれば、特段これ以上の意見はない。</p> <p>○委員：筑波地区支線型バスの今後については、交通弱者救済に重きをおいて議論する必要があると考えており、筑波地区の各区長だけでなく、交通弱者にとってより身近な存在である民生委員も交えて議論することで、交通弱者の意見をしっかりと汲み取った上での議論ができていると考えている。</p> <p>また、市担当者においては、各区会からの要望に対し、きめ細やかな対応をしていただき大変感謝している。</p> <p>○委員：荃崎路線バス実証実験に関して、宝陽台と森の里の住民から伝達事項を預かっているのでこの場をお借りしてお伝えしたい。宝陽台はつくば市内で非常に高齢化率が高い地区である。5年程前までは元気な高齢者も多く、お互い助け合いながら問題なく生活していたが、近年、高齢化がさらに進んだことや新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛により、以前に増して生活に不便を感じている人が増えている状況である。</p>	

宝陽台、森の里、城山及び梅ヶ丘は昭和40年頃に開発された大型団地があることで人口も多い地区となっている。しかしその年齢構成を見ると、特に宝陽台や森の里については、60代よりも70代が多い状況であり、足の不自由な住民等にとって、公共交通は重要な移動手段となっている。

については、今後について検討するに当たり、運行事業者である関東鉄道においては、そういった状況も踏まえて検討いただきたいと考えている。

○会 長：筑波地区支線型バスへ議論を戻らせていただく。要望コースへの変更に伴い、1日の運行便数が10便から8便へ減少することで、運行間隔（現在は1時間当たり1便程度）が広がることとなる。今後細かいダイヤを検討していく中で明らかになると思うが、何か支障が生じないか懸念している。

○委 員：本格運行に当たり、全4コースのうち第3コースのみ残すことに至った経緯の1つとして、観光客の利用促進も見込んだものと認識しているが、その上で1点お願いがある。

筑波山へバスでアクセスする場合、通常、筑波山シャトルバスの利用が多数であるが、下山時刻がバスの運行時間終了後となる登山者が一定数おり、その方々の帰りの移動手段が問題となっている。以前は筑波山神社前に停車しているタクシーが対応していたが、既に撤退しており、現在、帰りの移動手段としては、筑波山口まで下山してつくバス北部シャトルに乗車する方法となる。

そのため、筑波地区支線型バスのダイヤ設定（特に夕方の便）に当たっては、つくバス北部シャトルとの乗り継ぎが円滑に行えるダイヤを設定いただくと観光客の利用促進につながると考える。

○会 長：つくば市は現在、第3次つくば市観光基本計画の策定を進めており、私は本計画策定委員会の座長も務めていることから申し上げますと、筑波山はつくば市における最大の観光資源である一方、秋の紅葉シーズンの混雑をいかに解消していくかといった課題もある。そこでつくば観光コンベンション協会にはデータの提示をお願いしたい。昨日筑波山へ登山した友人の話では、日中は頂上手前で1時間程度の行列ができており、また、夕方はダイヤモンド筑波を見るため、観光客が日没まで待機していたとのことであった。こういった状況は紅葉シーズンがピークかと思うが、例えば、混雑対策としてバスの増便を検討するに当たり、観光客数や混雑

率等のデータを示すことで、どの期間増便すべきかといった具体的な議論ができるのではないかと思う。私からも、市経済部観光推進課へ話はしておくが、ぜひ検討いただきたい。

○委員：承知した。

○会長：以上、各委員からの意見がないため、筑波支線型バスの今後については継続案件として今後も引き続き審議していきたい。

次に、荃崎路線バス実証実験の今後について審議を行いたい。荃崎地区の住民から牛久市の事業であるコミュニティバスかっぱ号つつじが丘ルート（以降、「かっぱ号」）に関する要望がある一方、つくば市の事業として本格運行を予定している牛久駅行のバスについて、宝陽台を經由してほしいとの要望もあるとのこと。現在、かっぱ号は宝陽台地区にバス停留所を設置しており、その利用状況について、牛久市に報告いただきたい。

◎牛久市：平成19年4月1日にかっぱ号の停留所を宝陽台に設置して以降、多くの住民にご利用いただいている。新型コロナウイルス感染症拡大前である平成30年度の利用者数は、全体27,463名のうち、8,383名（約30%）がつくば市内の停留所での利用者である。また、令和2年度の利用者数は、全体17,420名のうち4,768名（約27%）がつくば市内での利用者であり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により利用者数は減少している状況である。なお、今年度上半期の利用者数は、全体9,651名のうち2,460名（約25%）がつくば市内での利用者である。

○会長：新型コロナウイルス感染症拡大前には多くの利用があったということで承知した。

次に資料1別紙2の要望3、4について、事務局に現在の検討状況を教えていただきたい。

●事務局：要望4（荃崎第二小学校近くに停留所を設けてほしい。）については、設置場所の安全性等を警察へ相談した感触では、要望にお応えできそうな状況である。要望3（ふれあいプラザ前に停留所を設けてほしい。）についても、設置予定場所の見通しは良好なため、警察協議未了ではあるが問題はないのではないかと考えている。

○会長：要望4に関して、現在、荃崎第二小学校へ自転車で通っている小学生が何名かいると聞いているので、バス停留所が設置されることにより、バス通学が可能となるので、非常に良い要望だと思っている。

一方、要望2（宝陽台地区を周ってほしい。宝陽台南に停留所を設けてほしい。）について、それによる運行時間の増加を懸念している。また、宝陽台南に停留所を設置することについて、つくば市事業ではなく、かっぱ号において停留所を新たに設ける案はどうか。荃崎地区の代表として出席いただいている小原委員に意見を伺いたい。

○委員：現時点でそれに対する回答を持ち合わせてないが、かっぱ号により救われているという意見は住民から聞いている。

●事務局：現在、宝陽台地区の最寄り停留所は宝陽台公民館停留所である。そのため、地区により近い宝陽台南停留所が設置されることにより、利便性は向上するのではないかと考える。いずれにしてもかっぱ号での新たな停留所となれば、最終的には牛久市の判断となる。

◎牛久市：この場で結論を答えられないが、バス停留所の総数を変えずに停留所の移動という形で対応する余地はあろうかと思う。

○会長：路線バス運賃補填事業の今後について、関鉄ふれ愛パスの利用促進を図ることを検討とある。利用促進の一例として、公民館におけるパスの販売等、様々な場所で購入が可能になれば、より多くの方の利用につながるのではないかと考える。また、市民に市の公共交通政策を理解してもらうため、イベント等の開催を行うのはどうか。

○委員：つくば市の公共交通政策に関する住民の認知度は低いと感じるので、積極的に説明会等を開催いただけるとありがたい。

●事務局：関鉄ふれ愛パスの利用促進については、関東鉄道の事業となるため、いずれにしても関東鉄道の協力が必要である。

○会長：以上、各委員からの意見がないため、荃崎路線バス実証実験の今後については継続案件として今後も引き続き審議していきたい。

・審議案件2 令和4年度路線バス運行実証実験事業について

●事務局：令和4年度路線バス運行実証実験事業について、資料2に基づき説明。

○会長：実証実験2（路線延伸実証実験）について、住民はどのコース（松代地区内循環、学園西大通りへの延伸等）を望んでいるのか。

●事務局：現状として住民へのアンケート等、意向を確認している段階ではない。今後、運行事業者である関東鉄道と相談しながら検討していきたいと考えている。

先程説明にもあったとおり、本事業は松代5丁目の宅地造成に

伴う新たな集客を見込んだ実証実験であり、まずは民間事業者である関東鉄道に運行の相談を行った段階である。収支面等の課題については、今後、引き続き検討する必要がある。

○会 長：1日当たりの便数の想定を教えてください。

●事務局：関東鉄道からは、実線（現行コース）は1日あたり34便で従前どおり運行する一方、点線のコースを松代南循環（新路線）として、1日あたり26便で運行する案をいただいている。ただし、この案では国道408号沿いのバス停だけ1日合計60便の運行となり、団地内の34便、26便と乖離が生じることから、この案で運行してよいかは関東鉄道とつくば市で今後協議していきたい。

○委 員：実証実験1（路線変更実証実験）について、本路線は石下～土浦間の長距離路線であるため、利用者は広域にわたる。今回の実証実験による効果（コストコやつくば警察署へのアクセス向上）を沿線の方々に示すといった、広域へのサービス向上に目を向けることも重要かと思う。

○会 長：以上、各委員からの意見がないため、審議案件2については継続案件として今後も引き続き審議していきたい。

・報告案件1 令和3年度上半期利用実績について

●事務局：令和3年度上半期利用実績について、資料3に基づき説明。

○委 員：つくタクのお断り数増加について、今後の改善策は検討されているのか。

●事務局：今後、共通ポイントや特例ポイントの設定を見直す必要がある。運行事業者と相談しながら、利便性を損なわないポイントの設定を検討していきたい。

○委 員：筑波地区支線型バスは、今年度末で第3コース以外終了となるが、上大島等で一定数の公共交通利用者はいるため、その方々の救済措置として、つくタクの充実を図っていただきたい。

○委 員：つくバス等の利用者数について、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には回復していないとの報告であったが、テレワークやネットショッピングの普及による影響（外出減による公共交通の利用減）は、新型コロナウイルス感染症拡大の収束後も引き続きあると考えるので、利用状況を完全に元に戻すことは困難。

その上で行政と考えるべきことは、現在の路線やダイヤが地域の住民にとって本当に使い勝手の良いものであるのかどうかということである。時間帯別の利用等も含め、利用者のより詳細な分

## 様式第1号

析を行っていく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大前の利用状況に戻すことを目標とするのかも含めて検討すべきである。

○委員：意見ではないが、つくたくに関して、便利であったという声を住民から聞いているので、委員の立場として非常に嬉しく思っている。

○会長：つくたくについて、1点お願いである。乗合率等は前年度比で大きな増加がない一方、お断り数が前年度比3倍以上になっていることについて、今後改善の余地がないか検討いただきたい。例えば、配車へのAI導入や抽選による乗客の決定（予約者の中から乗合率の高いペアを抽選で決定）等の案はどうか。現在、予約順で配車を設定していることにより、一番早く予約した者に左右される配車となっていることから、より多くの方に利用いただける改善策を検討いただきたい。

○委員：事務局より説明のあったお断り数の増加については、つくたく運行会社の立場として、責任を感じているところである。増加した要因は様々であるが、会長からご指摘いただいたとおり、一番早く予約した者を基準に配車を組むことに限界を感じている。つくば市とも連携しながら新しい配車の在り方を検討していきたいと考えている。現状、解決策を導き出せていない状況ではあるが、より多くの方々に利用いただけるような仕組み作りを進めていきたい。

### ・報告案件2 令和2年度広域連携バス利用実績について

●事務局：令和2年度広域連携バス利用実績について、資料4に基づき説明。

○委員：桜川市や筑西市の広域連携バスが、つくバスよりも新型コロナウイルスの影響を受けていない理由として、テレワーク等の外出自粛の影響を受けない通学利用者が多いことが考えられるとのことだが、令和3年度上半期の実績も報告いただけるとより深い検証ができるのではないかと思う。

### ・報告案件3 つくたくの特例ポイントの変更について

●事務局：つくたくの特例ポイントの変更について、資料5に基づき説明。

### ・報告案件4 筑波地区支線型バス一部運休について

●事務局：筑波地区支線型バス一部運休について、資料6に基づき説明。

○会長：周辺住民へはどのように周知しているのか。

## 様式第1号

●事務局：各バス停留所にお知らせを掲示するとともに広報つくばでの周知を行っている。

### ・報告案件5 つくバス広告事業に係る協定書の締結について

●事務局：つくバス広告事業に係る協定書の締結について、資料7に基づき説明。

### ・報告案件6 新高校生(令和3年度入学生)へのバスお試し乗車券配布結果について

●事務局：新高校生(令和3年度入学生)へのバスお試し乗車券配布結果について、資料8に基づき説明。

○会長：高校生の通学形態は様々（行きは親の送迎、帰りは部活等により親の帰宅時間と合わないため公共交通利用等）であることから、より多くの高校生に利用いただけるような取組を検討いただきたいと思う。

○委員：今年4月に開校したS高等学校茨城つくば本校は対象校に含まれているのか。

●事務局：県の事業のため確認させていただく。

（後日回答）

県に確認したところ、今年の4月開校であったため、昨年検討時には対象に入れていなかったが、次回（令和4年の3月配布）は対象校に含める形で検討するとのこと。

### ・その他

●事務局：次回の協議会については、来年2月頃を予定。詳細は決まり次第報告する。

以上